

宗温(珠トの子)の跋とがある。關吏が黒島に遊び、將に歸らうとする時、人々笛を吹き、篋別の吟などうたうたあることから題號を採る。關吏の發句による歌仙及び諸國の句を集めてある。

ヒゲアラヒイケ 髭洗池 江沼郡篠原にあつて、壽永二年源軍が齋藤實盛の首級を得、その髭を洗つた所であると傳へられた。越登賀三州志に、實盛の髭洗池は後人の質作で、宇治の扇の芝の類だとしてゐる。

ヒゲタ 日下田 羽咋郡熊野方郷に屬する部落。

ヒコ 彦 鳳至郡皆月の百姓。天正十六年前田利家から扶持米十俵を受け、子孫世々山廻役に任せられた。

ビコウソウ 備荒倉 天保五年加賀藩が蓄米を命じて凶荒の用に供した際、諸郡にも十村組毎に備荒倉を起さしめる意があつたが、當時財界の形勢之を許さなかつたから、翌六年先づ要所にのみ之を建設せしめた。加賀能美郡小松・石川郡松任・河北郡津幡、能登鹿島郡大町・鳳至郡宇出津、越中礪波郡六家・池尻、射水郡小松・下村・加納、新川郡三日市・泊、滑川の十三ヶ所が是である。

ヒコソウマチ 彦三町 ヒコソ 金澤の町名。

藩政中は都べて藩士の邸で、一番丁から七番丁まであつた。不破彦三及び同姓の人々が爰に居住したから、實永頃までは彦三殿町と稱し、後に彦三町になつた。但し彦三町とは言はず、彦三何番丁と呼んでゐる。

ヒコタロウバタケ 彦太郎畑 河北郡笠野郷に屬する部落。

ヒゴノモノ 肥後のもの 一册。金澤の俳

人眉山編。京菊屋太兵衛板。眉山が肥後に行脚した折の紀行で、几童等の附合も載せてある。序は寛政元とりのなつ關吏。

ヒサギミ 壽君 實は藩臣前田美作守孝行の女。名は誠姫。元祿十四年金澤に生まれ、正徳四年前田綱紀の養女として三條西公福に嫁し、次いで三條實治の猶子となつて君號を許され、壽君と稱したが、享保四年三月廿四日十九歳を以て歿した。法號春嶺院。京都虛山寺に葬る。

ヒサゴ 日砂子 ゴシヤ 鳳至郡浦上の内の小字。

ヒサタ 久田 ↓キユウデン 久田。

ヒサタアツノリ 久田篤敬 通稱清左衛門。父は貞右衛門。初め二十人扶持を受け、次いで新知百五十石となり、享保十一年父の遺知三百五十石を襲ぎ、御馬廻に班し、表御納戸奉行に任じ、延享四年御細工奉行を経て、寶曆四年組外御番頭に進み、六年四月十四日七十三歳を以て歿。

ヒサタギザエモン 久田儀左衛門 孫右衛門の子。祿百五十石から七百石に進み、元和元年大坂の再役に御持弓頭として足輕二十員を率ゐ、首一つを得た。明暦元年歿。その子にも儀左衛門がある。

ヒサタケホ 久武保 石川郡に在つた。祇陀寺藏應永二年三月廿一日修理大夫判書に、『寄附加賀國祇陀寺同國久武保内田地壹町捌段地頭職事。又應仁二年十月朔日富樫鶴童丸判書に、『加賀國河内庄祇陀寺領中村庄久武保、村井之内、并成丸之内、長島之内田地等之事。』とある久武保は、加賀志徴に之をクブホと訓んで、後の久保村と解してゐるが、久

保ならば河内庄で中村庄ではあるまい。ことにその後に書かれてゐる村井・成丸・長島は何れも後世の山島郷に屬するが故に、久武保も同郷又は隣接の中村郷に屬せねばならぬ。従うて貞永式目追加に載せる仁治二年三月廿五日評定の文に、『加賀國吹保地頭庄田四郎次郎行方』と見える吹保も久武保と同じとする説は採らない。吹保こそクボ保で、河内庄久保村に當り、中村庄久武保とは別のものではあらう。

ヒサタナガチカ 久田脩周 通稱増三郎。藤左衛門・平右衛門。享保十九年父平承の遺知百五十石を襲ぎ、表御納戸奉行・御臺所奉行より次第に昇進して大組頭に至り、天明二年百石を加へ、寛政九年三月歿した。

ヒサタナリトキ 久田濟時 もと坂田氏。久田濟寛の養嗣子となり、明倫堂助教に任じ、傍ら前田利嗣の侍讀を勤め、次いで金澤藩督學となり、爾後各校に教鞭を執り、明治八年更に前田家の家從に擧げられたが、年七十に及んで辭去した。大正五年七月十日歿、齡八十一。

ヒサタマゴエモン 久田孫右衛門 一に孫十郎に作るは或は初名であらう。尾張荒子に於いて前田利家に仕へた時には祿六十石であつた。子孫藩に世襲する。

ヒサタマサトミ 久田方福 通稱平三・忠兵衛・平太夫。寛政十年父忠太夫善昭の遺知百五十石を襲ぎ、御馬廻に列し、二丸御廣式御用達・御近習詰等に任じ、五十石を加へ、天保七年歿した。

ヒサノリ 久則 加賀の刀工。萬歳久則と切る。文政・天保頃金澤に住し、切物の上手であつた。

ヒサヤス 久安 石川郡富樫庄に屬する部落。白山神社の寶殿に懸つてゐた鰯口に、『永正九年壬申閏卯月廿三日大工久安住人藤原重家』と記されてゐた。又越登賀三州志故墟考には、久安の館迹に就いて『在富樫庄久安村領。土人は之を富樫館と呼ぶ。今は其迹爲畑。或云。此村領に富樫泰高下第在て、泉石造成の別荘を置くと云。一書に、此地に義經笈掛松とて在しが、延寶中枯傷せり。』とある。こゝに泰高といふは、家明のことでもあらうか。

ヒサヤスウチ 久安氏 富樫家譜に、富樫介泰明の子に高家があり、高家の弟家明は石川郡久安に住した。故に時人之を久安殿と稱したとある。龜尾記に、久安村の館は土人之を富樫の館といふ。富樫家明その子家元相繼いで爰に住したとある。白山富樫殿講中記録に、正中三年守護富樫家明がある。

ヒサヤスジヨウ 久安城 石川郡久安に在つた。官地論長享元年十二月高尾城攻圍の條に、洲崎泉入道慶覺・河合藤左衛門尉宣久を大將として、上久安に俄に要害を構へたとある臨時の堡壘である。

ヒサン 眉山 ↓オホサカヤビサン 大坂屋眉山。ムラタスイジヨウ 村田翠丈。

ヒシコバンギン 菱小判銀 ↓ギンカ 銀貨。

ヒジザツロク 飛耳襪錄 一册。國事昌披問答と内容殆ど同じく、僅かに二三條の異事を載せてある許りである。

ヒシネガハ 菱根川 羽咋郡中山領の山谷から流出で、大島領で海に注ぐ。流程一〇軒